

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18201051

研究課題名（和文） 着衣する身体と女性の周縁化

研究課題名（英文） Clothed Body and Marginalizing as Women

研究代表者

武田 佐知子（TAKEDA SACHIKO）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：00181412

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果は大きく分けて二つある。一つは、従来のカタログ的な着衣研究ではなく、個別地域の具体的な文脈から引き離さず、着衣、身体、女性の関係を読み解くための共通の枠組を構築し、ローカルな視点とグローバルな視点の接合によって開ける多様性のなかの着衣研究の可能性を提示したことである。男性身体の周縁に位置づけられた女性身体の変異性、着衣による身体のアイコン化と増殖現象、共同体による着衣身体の共有と変換、ジェンダー秩序のなかで受容される女性身体の意味とその操作、そして既存の共同体の集散的に実践や意識／無意識が、視覚表象と深く関わり相互交渉がなされていることを明らかにした。

二つめは、日本では「着衣する身体と政治学」と題し、タイでは「着衣する身体と異性装一日・タイの比較」と題した国際シンポジウムを開催し、単に抽象的、モデル的に着衣研究の事例を理解するのではなく、現場に即した肌に触れる知を通して、実践知と暗黙知を提示したことである。

研究成果の概要（英文）：

There are two major achievements for this project. First, I have constructed a framework for comprehending the relations between clothing, bodies and women in the tangible context of each survey area, and thereby I have suggested great potential of the clothing study in the scheme of local and global perspectives. Unlike the traditional taxonomic approach, such new methodology of the clothing study illuminates the following attributable significance of clothing: the fluidity of female bodies situated as the periphery of male bodies; the canonization and consequent multiplication of human bodies through clothing; the communization and modification of clothing

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	7,900,000	2,370,000	10,270,000
2007年度	11,700,000	3,510,000	15,210,000
2008年度	15,300,000	4,590,000	19,890,000
2009年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
総計	39,000,000	11,700,000	50,700,000

研究分野：日本古代史

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：着衣、身体、ジェンダー表象、エスニシティ、伝統

1. 研究開始当初の背景

本研究は、アジア、アフリカ、ヨーロッパのさまざまな地域を研究対象とする旧大阪外国語大学教員、特に総合科目女性学リレー講義を担当していた教員を母胎に、着衣、身体、ジェンダーをキーワードにして個別地域における事例の集積と比較検討するための枠組を検討する研究会が発点であった。当時 24 言語をそろえていた大阪外国語大学では、着衣という共通の素材をローカルな視点で徹底的に調査・研究するだけの人的資源および地域研究の経験蓄積があり、それを十分に活用できる環境が整っていた。個別具体性に着目した着衣研究は多いが、それを単なる事例報告ではなく、グローバルの接合面で身体、女性の周縁化を解明するような比較の視座を提示する可能性を議論していた。そうした研究会の一方で、メンバーは各自のフィールド調査の準備を開始していた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、着衣という共通の素材を通して、特定の社会におけるジェンダーのあり方を研究し、さらに、地域間の比較を行うことによって、最終的に、グローバルな視点から、世界における女性の周縁化を理解しようとするものである。人類社会において着衣は、他者に見せ、自己を相対化させながら、特定の社会への帰属を示し、あるいは、ジェンダー、宗教、職能といった社会内部の構造を映し出してきたが、近代化の過程においては、着衣は伝統社会における日常と非日常のルーティーンから離れ、ある特定の意味を強く帯びるようになってきている。例えば、国民国家やエスニシティにおける政治性であり、「国民服」や「民族服」の創造がその例である。あるいは、資本主義的欲望の対象となる差異の指標としての着衣であり、西洋的な企画の衣服に民族性を取り込んだファッションとしての「民族衣装」がその例だとも言える。このような、個人、ローカル、ネイション、リージョナル、グローバルなアイデンティティの重層性の中で立ち現れている着衣という現象を、一つは、個別地域におけるローカルな視点から、もう一つは、共通の枠組みに基づいたグローバルな視点から研究すること、これらの二段階にわたる研究成果を総合し、グローバル化の進む世界における、女性の周縁化の状況を解明するこ

とが、本研究の学術的側面における最終的な目的である。

3. 研究の方法

(1) アジア、アフリカ、ヨーロッパ、日本の個別地域（歴史的地域社会も含む）について、個別具体的な着衣をめぐる現象の現地調査を行い、徹底的にローカルな文脈での解釈を試みる。また、歴史的地域社会については、一次資料の積極的な収集（画像含む）を行い、実証的な方法で現象にアプローチした。

(2) 集積された個別事例の比較検討を行うために、川田順三が提起した「文化の三角測量」を継承し、東京分科会も含めた全体討議を重ねることによって、ローカルな視点を交叉させるといった方法をとった。

4. 研究成果

(1) 従来のカタログ的な着衣研究ではなく、個別地域の具体的な文脈から引き離さず、着衣、身体、女性の関係を読み解くための共通の枠組を構築し、ローカルな視点とグローバルな視点の接合によって開ける多様性のなかの着衣研究の可能性を提示した。その成果は、20 数本の論文となり、「着衣の歴史」「身体政治」「身体史」という大枠で編集され、三巻本として刊行される予定である。とりわけ、東京分科会は、着衣をめぐる表象の政治性を明らかにし、着衣と表象をめぐる諸現象の基本的な枠組を提示した。その3年間の研究成果として、男性身体の周縁に位置づけられた女性身体の変容性、着衣による身体アイコン化と増殖現象、共同体による着衣身体共有と変換、ジェンダー秩序のなかで受容される女性身体の意味とその操作、そして既存の共同体の集成的に実践や意識／無意識が、視覚表象と深く関わり相互交渉がなされていることを各々のテーマの中に内在させた報告書を2009年3月に刊行した。

(2) 2回の国際シンポジウムを開催し、単に抽象的、モデル的に事例を理解するのではなく現場に即した肌に触れる知を提示した。一つは、大阪大学・グローバルコラボレーションセンターとの共催で「着衣する身体政治学」と題するシンポジウム（2009年2月5日 於神戸ファッション美術館）、「肌に触れる知の発見」と題するワークショップ・エキシビション（2月7日-8日）を開催した。

特にワークショップ・エキシビションでは、苦境に立つ「伝統」的染織に寄り添っている人々を報告者として招き、報告者の語りと染織を肌で感じることで、私たち自身の飼い馴らされた身体に気づき、実践知、暗黙知としての「衣」文化の理解を試みた。「衣」文化を伝統／近代の二項対立で捉える西欧近代の暴力性の再生産に抗う、別の知のあり方を提示した。この成果は報告書として3月末に刊行した。二つ目は、タイ国チュラーロンコン大学文学部と共同開催した「着衣する身体と異性装—日・タイの比較—」と題するシンポジウム(2010年1月8日)である。〈衣服と異性装〉というテーマに焦点を当て、ジェンダーの観点から両国における専門家による事例の分析にくわえ、教員・学生の参加のもと、〈衣服と異性装〉にまつわる観点から様々なトピックを立て、意見交換およびディスカッションを行った。トランスジェンダーの先進地域であるタイで、衣服と異性装をめぐって生ずる実際的な文化状況を捉え、そこにみられる両国の差異および社会的摩擦など、現場に密着した場面での理解を試みた。この成果は2010年3月に報告書として刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

- ① 三好恵真子、理想化される女性の身体像—自己対象化から考察するスリム・ダイエット志向—、New Food Industry、査読有、51巻10号、2009、pp. 49-59
- ② 太田妙子、《女性医師》を着衣から考える—江戸から明治初め、医譚、査読無、89巻、2009、pp. 101-112③
- ③ 竹村景子、タンザニアにおける「カンガ」の生産状況と着用状況—カンガ生産工場でのインタビューと女性たちへの「着用意識」調査から—、スワヒリ&アフリカ研究、査読有、20号、2009、pp. 18-39
- ④ 池田忍、「コメント1 視覚表象研究/美術史研究の視点から」歴史学研究会2008年度大会報告 近代史部会「「分類」のポリティクス —近代的「人種」の再検討—」、歴史学研究、査読無、増刊号、2008、pp. 107-109
- ⑤ 千葉泉、植民地時代チリにおける先住民装束の変容(1)—「マクン」と「イクージャ」、Estudios Hispánicos、査読無、32号、2007、pp. 93-114

〔学会発表〕(計4件)

- ① 藤原克美、ソビエト繊維産業とファッション、日本比較経営学会、2009年5月23日、沖縄国際大学
- ② 宮原暁、閉じられた身体とクレオール身体のあいだ—フィリピン・セブにおけるチャイニーズのアイデンティティをめぐって—、日本華僑華人学会、2008年11月17日、慶應義塾大学

〔図書〕(計12件)

- ① IKEDA, Shinobu、Brill Academic Pub、The Allure of a Woman in Chinese Dress: Representation of the Other in Imperial Japan, In *Performing "Nation": Gender Politics in Literature, Theater, and the Visual Arts of China and Japan, 1880-1940*, edited by Doris Croissant Catherine Vance Yeh, and Joshua S. Mostow, Leiden, 2008、pp. 347-382 (445)
- ② 生田美智子、ミネルヴァ書房、外交儀礼から見た幕末日露文化交流史、2008、pp. 384

〔その他〕

ホームページ等

URL: <http://body.cloth.googlepages.com>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
武田 佐知子 (TAKEDA SACHIKO)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 00181412
- (2) 研究分担者
池田 忍 (IKEDA SHINOBU)
千葉大学・人文学部・教授
研究者番号: 90272286
- (3) 研究分担者
脇田 晴子 (WAKITA HARUKO)
城西国際大学・人文学部・教授
研究者番号: 80088012
- (4) 研究分担者
太田 妙子 (OHTA TAEKO)
大阪大学・保健センター・教授
研究者番号: 10135759
- (5) 研究分担者
堤 一昭 (TSTUMI KAZUAKI)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号: 70283835

(6) 研究分担者

井本 恭子 (IMOTO YASUKO)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40252738

(7) 研究分担者

千葉 泉 (CHIBA IZUMI)
大阪大学・人間科学研究科・教授
研究者番号：20217243

(8) 研究分担者

福岡 まどか (FUKUOKA MADOKA)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：40379318

(9) 研究分担者

三好 恵真子 (MIYOSHI EMAKO)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：60294170

(10) 研究分担者

宮原 暁 (MIYABARA GYO)
大阪大学・グローバルコラボレーションセン
ター・准教授
研究者番号：70294171

(11) 研究分担者

住村欣範 (SUMIMURA TOMONORI)
大阪大学・グローバルコラボレーションセン
ター・准教授
研究者番号：30332753

(12) 研究分担者

深尾 葉子 (FUKAO YOKO)
大阪大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：20193815

(13) 研究分担者

生田 美智子 (IKUTA MICHIKO)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号：40304068

(14) 研究分担者

松村 耕光 (MATSUMURA TAKAMITSU)
大阪大学・世界言語研究センター・教授
研究者番号：60157352

(15) 研究分担者

藤元 優子 (FUJIMOTO YUKO)
大阪大学・世界言語研究センター・教授
研究者番号：40152590

(16) 研究分担者

宮本 マラシー (MIYAMOTO MARASHI)
大阪大学・世界言語研究センター・教授
研究者番号：00200212

(17) 研究分担者

竹村 景子 (TAKEMURA KEIKO)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：20252736

(18) 研究分担者

中本 香 (NAKAMOTO KAORI)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：30324875

(19) 研究分担者

藤原 克美 (FUJIWARA KATSUMI)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：50304069

(20) 研究分担者

古谷 大輔 (FURUYA DAISUKE)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：30335400